魅惑の2大スターが
絢爛と競う
危険な恋の陶酔

―― あまりにも女らしく、あまりにも異なるふたりの女の愛……耽美派の名匠バディムが最愛のテーマに挑んだ文芸ロマン!

UNE FEMME FIDELE

〈カラー作品〉シルビア・クリステル/ナタリー・ドロン/ジョン・フィンチ■監督・脚本ロジェ・バディム■撮影クロード・ルノワール/音楽モート・シューマン/主題曲〈サントラ盤〉セブンシーズ/原作「危険な関係」講談社文庫版/フランス映画/東宝東和提供

シルビア・クリステル＊ナタリー・ドロン

TOWA

華麗な関係

＊近日ロードショー

日比谷 みゆき座 (591) 5357

伊勢丹前 新宿文化 〈351〉 3414

＊華麗な2大スターが初顔合せで競う危険な恋の陶酔！

今や世界のトップ女優として「エマニエル夫人」以来一作ごとに演技の巾を広げるシルビア・クリステル。そして名作「個人教授」などでわが国にも絶大な人気を誇るナタリー・ドロン。この2大女優が初めて顔を合わせ、19世紀の退廃的な貴族社会を舞台に魅力を絢爛と競う待望の最新作である。

夫のある身ながら、激情の恋のとりことなる悲恋のヒロインを、シルビア・クリステルがクラシックな優雅さをたたえて、まばゆいばかりの美しさで演じれば、一方のナタリー・ドロンは恋のアバンチュールを楽しみ、奔放に生きてゆく成熟した女の魅力とエゴを心憎いまでに見せる。そして、この2人にニヒルで〝ワル〟の匂いさえ漂よわせながらも貴族的な雰囲気を持つジョン・フィンチが絡み、スキャンダラスな恋と背徳に満ちた貴族社会に咲いた悲しい恋を織りなしている。

＊耽美派の鬼才ロジェ・バディムが最愛のテーマに挑む文芸ロマン！

原作はフランス文学史上、不朽の名作として名高いラクロの「危険な関係」。耽美派の鬼才として知られるロジェ・バディム監督は1959年に、ジェラール・フィリップ、ジャンヌ・モローの主演で同名の映画を発表、アンモラル（反道徳）のテーマを大胆にとりあげて一大センセーションを巻き起した。そして今回、シルビアとナタリーという2大トップ女優で再びこの名作に挑み、「前作を上まわる出来」と自信満々に語っている。

＊初めての出逢い……それは運命の糸にあやつられるかのごとく互いの心を揺さぶった！

1826年の春――若い貴族が白い馬に乗って雨の草原を駆っていた。シャルル・ド・ラパルム伯爵。才気と教養に溢れる彼は公職を退きスキャンダラスな日常に明け暮れていた。この日も妻を誘惑されたと嫉妬した夫から決闘を申し込まれ誤って殺してしまったのだ。その帰りに伯母の城館に寄った彼は、滞在客のマチルド・ルロワ夫人を迎えにゆくように頼まれ外に出た。そこで彼は川べりに若い女の姿を見た。彼女も気付いて一瞬立ちどまる。彼は息をのんだ。

何と美しい人なのか。きらきらと光り輝いているようだ…

＊上流社会の手練手管をつくした恋のゲーム

伯母の城館に滞在している間、シャルルは〝恋の共犯者〟フローラ伯爵夫人の訪問を受けた。彼女はシャルルがマチルドに執心し、今までのようにベッドの中で恋のアバンチュールを打ち明け合って楽しもうとしないことに疑惑を抱く。もしや本気であの女に……自尊心の強い彼女にとってそれは許せないことであった。

一方のマチルドはシャルルの強引な接近に当惑し、屋敷に帰ってしまう。しかし彼はパリまで彼女を追い、大芝居を打って見せた。「貴女を忘れるために修道院に入ります…」このシャルルの涙さえうかべた告白に、マチルドの心はついに燃え上がった……

＊偽りのはずだった恋、それが真実の恋となったときに待ちうけていたものは……

その夜シャルルはフローラの仮装舞踏会に出席していた。彼が常に恥じている事――一人の女に惚れる事――をふっ切るため、酒に酔おうとするがマチルドのことが頭から離れない。「彼女を本気で愛してしまった」

その頃、すべてを捨て彼の愛に生きるマチルドに一通の手紙が届いていた。それはフローラがシャルルの名で書いた別れの手紙。その手紙を彼の本心と信じてしまったマチルドの悲しみは、彼女から生きる勇気のひとかけらさえも奪ってしまったかのようだった……

UNE FEMME FIDELE 華麗な関係

東宝東和提供 TOWA カラー作品／フランス映画

＊傷つき揺れ動く3人の愛の軌跡！

マチルド・ルロワ夫人（シルビア・クリステル）

清楚でういういしく、内に激しい情熱を秘めた若く美しい人妻マチルド。

夫に貞節を尽すことが女の幸せと信じ、何不満のない毎日を過していたがシャルルとの出逢いが彼女の運命を大きく変えてしまう。

シャルルのため、一途な愛にすべてを捧げるが、彼女の純な心がかえって自分自身を悲劇的な結末へと導いてゆく。

フローラ・ド・サン・ジル伯爵夫人（ナタリー・ドロン）

成熟した女の魅力、持ち前の才気と政治力で次々と男を手玉にとる。シャルルと組んで恋のゲームに明け暮れているフローラだが、彼女は彼女なりにシャルルを愛し続けていた。しかし、自分の最も軽蔑するタイプ――貞淑な女――マチルドに彼が本気になっていると知った時、2人への嫉妬と憎しみがわきあがってくる。

シャルル・ド・ラパルム伯爵（ジョン・フィンチ）

嘘を誠と信じて疑うことを知らないマチルドに、さしもの〝ドン・ファン〟シャルルもいつしか心を奪われている自分の姿に驚き、激しく動揺する。ひとりの女にいつまでも関わりあわないのが信条だったのに……。彼の恋の共犯者フローラにその本心を見抜かれたとき、シャルルはカタストロフィーに向かって自ら身を投じてゆく。